

1. 配布数 46 回答数 20

2. 勧告案 賛成である(2), 問題はあるが賛成である(11),
主旨は理解できるが反対である(4), 反対である(3)

賛成意見: 現状では最良の選択である, 便宜的な方法であるが実用的である, 実験室間の比較法として必要である, 現状では仕方がない。

反対意見: 検討が不十分で時期尚早である, 他の放射年代法に従属するのは問題である, 標準物質に問題がある, 若い標準物質が必要である, 母集団法をもっと許容すべきである, FT法の基本的解決にはならない, 手続きが複雑すぎる (Hurford and Green, 1983 のZ法でよい), λ 決定に努力すべきである, 強い拘束力を持つのは困る, 勧告案のレベルを凌駕する研究を目指せ。

3. わが国の標準物質の候補

刀利層薄中月長石流紋岩部層 (升本真二). 雁沢 (1989) 地質雑, 89, 271-286.

中新統馬場凝灰岩 (糟谷正雄) 地質雑 (1986), 92, 489-496.

第四系房総層群 (原雄)

第四系大阪層群ピンクタフ (檀原徹)

鮮新統渡神岳安山岩 (渡辺公一郎)

5 Ma 照来層群流紋岩 (弘原海清) アバタイト含む

1.4 Ma 熊野酸性岩 (弘原海清) アバタイト, スフェーン含む

2.4 Ma 月長石熔結凝灰岩 (弘原海清)

1.15 Ma 石英安山岩 (弘原海清)

4. 使用中の手法

ジルコン 2π 再エッチ (3), ED1 (10), ED2 (7), $2\pi P$ (1)

アバタイト ED1 (10)

スフェーン ED1 (3)

ガラス (2)

フルエンス測定 ζ (6), $\lambda = 7.03$ (4), $\lambda = 6.85$ (3), B (2)

5. FT研究会への意見

発表会を2~3日かけ充実させる, 基礎研究を追求する, 問題のあるテーマについて検討グループをつくる, ニュースレターを年4回程度発行する, 外国誌にもっと投稿する, 世界的な標準物質を決定する, 二次標準試料を整備する, FCTについて詳細な検討をする。